

# 総合人間学講座

## 1. 講座の教員構成

河西英通 教授（比較日本文化学）  
佐藤利行 教授（比較日本文化学）  
高永茂 教授（比較日本文化学）  
中村平 准教授（比較日本文化学）  
溝渕園子 准教授（比較日本文化学）

## 2. 講座の教員構成

### (1) 運営体制

講座主任：河西英通

分野世話人 比較日本文化学分野：河西英通

### (2) 講座会議の開催

第1回：4月18日、第2回：5月16日、第3回：6月20日、  
第4回：7月11日、第5回：9月2日、第6回：10月17日、  
第7回：11月21日、第8回：12月19日、第9回：1月16日、  
第10回：2月15日、第11回：3月2日

## 3. 重点的に取り組んだ事項や特記すべき事項

### (1) 教育

博士課程リーディングプログラム（たおやかプログラム）に2名の教員が参画し、グローバル・リーダーの養成に取り組んでいる。AIMS 事業には2名の教員が参画している。3+1プログラムにも2名の教員が参画している。

### (2) 研究

### (3) 社会連携

### (4) その他

# 総合人間学講座（比較日本文学）

## 1. 平成28年度の組織

河西英通 教授  
佐藤利行 教授  
高永茂 教授  
中村平 准教授  
溝渕園子 准教授  
奥田秀巳 教育研究補助職員

## 2. 教育・研究活動

### (1) 教育活動

#### 〔修士論文〕

- 「正岡子規の漢詩研究－「岐蘇雑詩三十首」を中心として－」
- 「日本統治期における台湾知識人のアイデンティティ－王昶雄の小説をめぐって－」
- 「中国における松本清張文学の受容」
- 「リービ英雄の「亡命者」創出の戦略－日本語文学の位置付けをめぐって」
- 「20世紀前半マドゥラにおける牛の飼育と流通」
- 「東日本大震災前後に見られる「絆」現象の研究」
- 「中国人留学生の中国語日常談話における日本語の混用に関する研究」
- 「少女漫画における手塚治虫の位置づけについての研究」
- 「中国河南省鄭城県の方言研究－「水」の発音について－」
- 「松本清張の推理小説における場所性についての研究」
- 「日中文学作品における女中像の比較研究－志賀直哉と魯迅の作品を中心に－」
- 「中日翻訳理論と実践の研究－日本語訳『赤い高粱』をめぐって－」
- 「安岡正篤の儒教に対する理解－安岡正篤の『論語に学ぶ』を中心として－」
- 「突破そして進歩：影響し合う映画環境と映画作品－張藝謀映画を中心に－」
- 「日本語における曖昧表現の使用意識についての研究」
- 「莫言の作品における詩的隠喩についての研究－大江健三郎との比較を通して－」
- 「アニメーションと地域振興の可能性」
- 「配慮表現に用いられる副詞についての研究－「なかなか」「かなり」「ずいぶん」「けっこう」を中心に－」
- 「現代日本の女性雑誌から見る恋愛と性についての考察」
- 「志賀直哉『暗夜行路』の女性像に関する考察」
- 「異文化接触の視点から見る食文化－日本における四川料理の変容について－」
- 「会社名の表記に関する日中対照研究」
- 「中国と日本のテレビ番組を対象とするマルチモダリティ分析」
- 「翻訳文学としての新美南吉童話－中国語訳を例に」
- 「日本酒と地域活性化に関する基礎的考察－広島県西条を例として」
- 「「カオナシ」考－日中比較文化の視点から」
- 「放浪詩人からペン部隊へ－女流作家林芙美子の「中国体験」－」

#### 〔博士論文〕

- 「江戸時代における詠物詩の比較研究」

### 〔集中講義〕

森岡文泉「超域文化論演習A」、夏 広興「人間文化学Ⅲ（漢字文化論）」、  
木村 守「人間文化学Ⅳ（言語文化論）」、彭 広陸「比較日本文化学研究A」、  
呉 相洲「六朝唐代韻文演習C」、太田 淳「人間文化論Ⅰ（日本文化論）」、  
張 威「超域文化論演習B」、楊 凱榮「比較日本文化学研究D」、  
張 立新「六朝唐代韻文演習D」

### (2) 研究活動

2016年度修士論文最終発表会 2016年5月14日、11月14日

2016年度修士論文中間・構想発表会 2016年6月6日、12月12日

2016年度博士課程後期新入学生研究交流会 2016年5月23日

## 3. トピックス

### (1) 入学・卒業・就職・留学状況

〔入学〕 博士課程前期 27名、博士課程後期 9名

〔修了〕 博士課程前期 27名、博士課程後期 1名

〔就職〕 博士課程前期 11名

博士課程後期 1名

〔進学〕 博士課程前期 4名

〔留学〕 1名

### 〔外国人留学生・研究生等在籍状況（年度末）〕

博士課程前期 50名 博士課程後期 28名 研究生 3名

特別研究生・特別聴講生 13名

### (2) 行事实施状況（セミナー、研修、合宿、調査など）

# 応用哲学・古典学講座

## 1. 講座の教員構成

後藤 弘志 教授 (哲学)  
小川 英世 教授 (インド哲学)  
越智 貢 教授 (倫理学)  
松井 富美男 教授 (倫理学)  
有馬 卓也 教授 (中国思想文化学)  
市來 津由彦 教授 (中国思想文化学)  
赤井 清晃 准教授 (哲学)  
碓 智樹 准教授 (哲学)  
根本 裕史 准教授 (インド哲学)  
衛藤 吉則 准教授 (倫理学)  
末永 高康 准教授 (中国思想文化学)

## 2. 講座の運営

### (1) 運営体制

講座主任：小川 英世  
分野世話人 哲学分野：後藤 弘志  
インド哲学分野：小川 英世  
倫理学分野：衛藤 吉則  
中国思想文化学分野：有馬 卓也

### (2) 講座会議（含むプログラム教員会）の開催

第1回：4月18日 第2回：11月7日 第3回：11月28日 第4回：1月16日

## 3. 重点的に取り組んだ事項や特記すべき事項

### (1) 教育

大学院では、外国人留学生の積極的な受け入れに努め、博士課程後期3名（インド哲学分野1名・倫理学分野1名・中国思想文化学分野1名）、博士課程前期7名（哲学分野1名・インド哲学分野1名・倫理学分野4名・中国思想文化学分野1名）を受け入れ、外国人研究員・研究生もそれぞれ1名（倫理学分野）と3名（倫理学分野2・中国思想文化学分野1）を受け入れた。

さらに、大学院への社会人の積極的な受け入れにも努め、博士課程前期に1名の入学者を得た（倫理学分野）。

一方、大学院生の国際展開にも努め、HUSA 交換留学制度により1名がドイツのチュービンゲン大学に留学をした（倫理学分野）。

学士課程では、将来的な外国人留学生の確保のために、「森戸高等教育学院3+1プログラム」に積極的に対応し、1名（インド哲学分野）を受け入れた。

## (2) 研究

「韓国・高麗大学哲学研究所と共同国際学術大会「感情と幸福」（高麗大学）を開催した。本講座からは代表者として後藤弘志教授、発表者として衛藤吉則准教授ならびに末永高康准教授の3名が参加した。（エビデンス：予稿集『感情と幸福』）」

倫理学分野では、現場の小・中・高校・大学教員と文部科学省等行政関係者と教科書会社等からなる「学校と道德教育（SAME）研究会」を年2回（夏：広島大学、秋：他大学）で開催し、道德教育についての研究活動を行った。

（エビデンス：<http://home.hiroshima-u.ac.jp/mlethica/same/same/same03.html>）。

また、松井富美男教授は、「古い」に関する韓国慶熙大学との研究交流を行い、研究の国際交流に努めた。

インド哲学分野では、Ernst Prets 博士（オーストリア科学アカデミーアジア文化・思想史研究所）講演会“News on Aviddhakarnṇa, Chronologies and Identities”を開催し、インド論理学についての学術交流を行った。（エビデンス：

<https://www.facebook.com/778232428884454/photos/rpp.778232428884454/817253368315693/?type=3&theater>）さらに、更登教授（中国・青海民族大学）を招聘してチベット中観思想研究会（H29.2.27）を開催し、国際交流に努めた。（エビデンス：

<https://www.facebook.com/778232428884454/photos/a.817253958315634.1073741828.778232428884454/1447139051993785/?type=3&theater>）

## (3) 社会連携

各種公開講座・講演会・各種委員等を通じて、本講座の教育研究の成果を社会に向けて発信した。構成員の活躍は以下のとおりである。

松井富美男教授は、広島大学公開講座 2016 「芸術と老年」－翁文化から学ぶ古い像－広島県民文化センター、スーパー・サイエンス・ハイスクール「倫理と科学」講演：「脳科学はどこまで人間の心に接近できるか？－心脳同一説の検討－」（広島大学附属高等学校）、第183回メンタルケア・スペシャリスト養成講座講師（「生命倫理」）（広島国際会議場）の各講演を行うと共に、放射能影響研究所倫理審査会・利益相反委員会の各委員を務めた。また、衛藤吉則准教授は、広島大学附属高等学校のSSH（スーパーサイエンス・ハイスクール）事業の運営指導委員会委員として指導・助言にあたった。（エビデンス：文部科学省研究開発学校 研究開発実施報告書、平成29年3月 広島大学附属高等学校）。

衛藤吉則准教授と裕智樹准教授は、広島大学文学部主催「21世紀の人文講座」 「哲学・倫理学を通して物の見方を考えてみよう－あなたは西洋タイプ、それとも日本タイプ？－」（まちづくり市民交流プラザ）というテーマのもと、それぞれ「日本的な物の見方とは？」・「西洋的な物の見方とは？」と題する講演を行った。（エビデンス：

[https://www.hiroshima-u.ac.jp/bungaku/riter\\_kokaikouza](https://www.hiroshima-u.ac.jp/bungaku/riter_kokaikouza)）。また、衛藤准教授は、「日

本倫理思想」について、FM東広島「和のこころ」に出演し、解説を行った（エビデンス：  
<http://ameblo.jp/fmhigashi/entry-12212597389.html>）。

さらに、小川英世教授と根本裕史准教授は、高校生対象公開講座「高校生のためのインド  
哲学・仏教学入門」（サテライトキャンパスひろしま(広島県民文化センター)において高  
校生のための公開授業を行った。（エビデンス

<http://www.enica.jp/03highschool/2016/02extension/02/original02-1.html>）

赤井清晃准教授・小川教授・根本准教授は、教員免許状更新講習（【選択】哲学の世界）  
の講師も務めた（エビデンス <http://www.hiroshima-u.ac.jp/menkyo-kosh>）

#### **(4) その他**

倫理学分野は、国際部の依頼を受け、燕山大学との「3+1」「日本語教員の博士課程  
後期への入学促進」についての提携交渉を進めた。

## 応用哲学・古典学講座（哲学）

### 1. 平成28年度の組織

後藤弘志 教授  
赤井清晃 准教授  
碓智樹 准教授

### 2. 教育・研究活動

#### (1) 教育活動

##### 〔卒業論文〕

「生まれ変わり仮説と唯物論的人生観の共存の可能性について—飯田史彦の所説とニーチェの『ツァラトゥストラ』をめぐって—」  
「アマルティア・センの幸福論について」  
「アウグスティヌス『告白』における時間論」  
「自然演繹について」  
「ハーバーマスにおける他者受容の理論とその射程」

##### 〔修士論文〕

該当者なし

##### 〔博士論文〕

該当者なし

##### 〔集中講義〕

関口浩喜（福岡大学准教授） 「論理学」  
河村克俊（関西学院大学教授）「西洋近現代哲学研究A・B」、「西洋近現代哲学特講」

#### (3) 研究活動

2016年度卒論・修論中間発表会 平成28年10月28日

### 3. トピックス

#### (1) 入学・卒業・就職・留学状況

〔入学（分属）〕 学部 9名、博士課程前期 1名、博士課程後期 0名

〔編入学〕 0名

〔卒業・修了〕 学部 6名、博士課程前期 0名、博士課程後期 0名

〔研究生〕 0名

〔就職〕 学部 2名（民間 2、公務 0、教員 0）、博士課程前期 0名  
博士課程後期 0名

〔進学〕 学部 0名、博士課程前期 0名

〔留学〕 1名

〔外国人留学生・研究生等在籍状況（年度末）〕

学部 0名 博士課程前期 1名 博士課程後期 0名 研究生 0名

**(2) 行事实施状況（セミナー、研修、合宿、調査など）**

第 84 回西洋哲学研究会 平成 28 年 7 月 23 日

## 応用哲学・古典学講座（インド哲学）

### 1. 平成28年度の組織

小川英世 教授

根本裕史 准教授

### 2. 教育・研究活動

#### (1) 教育活動

##### 〔卒業論文〕

「チベット古典格言集『サキヤ・レクシェー』の研究」

「*Bodhicaryāvatāra* 第2章「罪惡の懺悔」の研究」

##### 〔修士論文〕

『ラーマーヤナ』第五卷修辭の研究」

『法華經』「提婆達多品」の研究」

『大乘莊嚴經論』(*Mahāyānasūtrālamkāra*)の研究」

『カーヴィアーダルシャ』第2章チベット注釈の研究」

##### 〔博士論文〕

該当者なし

##### 〔集中講義〕

宇野智行（筑紫女学園大学 教授）「サンスクリット A B」（学部共通科目）

#### (3) 研究活動

2016年度卒業論文・修士論文中間発表会 平成28年12月10日

2016年度卒業論文・修士論文最終発表会 平成29年2月17日

### 3. トピックス

#### (1) 入学・卒業・就職・留学状況

##### 〔入学（分属）〕

学部 1名、博士課程前期 3名、博士課程後期 2名

##### 〔編入学〕

0名

##### 〔卒業・修了〕

学部 1名、博士課程前期 4名、博士課程後期 0名

##### 〔研究生〕

1名（外国人研究生）

**〔就職〕**

学部 0名、博士課程前期 1名（公務1）

博士課程後期 0名

**〔進学〕**

学部 0名、博士課程前期 2名（広島大学大学院1、総合研究大学院大学1）

**〔留学〕**

1名（HUSAプログラム、ドイツ・オスナブリュック大学）

**〔外国人留学生・研究生等在籍状況（年度末）〕**

学部1名（3+1プログラム） 博士課程前期4名 博士課程後期1名 研究生1名

**(2) 行事实施状況（セミナー、研修、合宿、調査など）**

Ernst Prets 博士（オーストリア科学アカデミーアジア文化・思想史研究所）講演会  
“News on Aviddhakarṇa, Chronologies and Identities” 平成28年11月17日

チベット中観思想研究会（特別講師：更登教授 [中国・青海民族大学]）平成29年2月27日

## 応用哲学・古典学講座（倫理学）

### 1. 平成28年度の組織

倫理学 越智貢 教授  
倫理思想 松井富美男 教授  
応用倫理思想 衛藤吉則 准教授

### 2. 教育・研究活動

#### (1) 教育活動

##### 〔卒業論文〕

「パスカルの賭についての研究」  
「レヴィナス研究」  
「人間の性格について～ショーペンハウアーを通じて～」  
「消費社会の環境倫理」  
「スッタニパータにみる初期仏教」  
「山本空外の「国体思想」解釈」

##### 〔修士論文〕

「福祉・医療現場における意志尊重の欺瞞性」  
「ハーバーマスの討議における同意の解明」  
「高等教育機関における情報倫理教育－日中比較の視点から－」

##### 〔博士論文〕

該当者なし

##### 〔集中講義〕

藤永芳純（大阪教育大学 名誉教授）「倫理思想史特講」

#### (3) 研究活動

2016年度 読書会（Adam Smith “An Inquiry into the Nature and Causes of the Wealth of Nation”） 平成28年度 毎土曜日

2016年度修士論文・卒業論文発表会 平成29年2月16日

### 3. トピックス

#### (1) 入学・卒業・就職・留学状況

〔入学（分属）〕 学部 6名、博士課程前期 2名、博士課程後期 1名

〔編入学〕 0名

〔卒業・修了〕 学部 6名、博士課程前期 3名、博士課程後期 0名

〔研究生〕 2名

〔就職〕 学部 6名（民間4、公務2、教員0）、博士課程前期 1名  
博士課程後期 0名

〔進学〕 学部 0名、博士課程前期 2名

〔留学〕 3名

〔外国人留学生・研究生等在籍状況（年度末）〕

学部 0名 博士課程前期 4名 博士課程後期 1名 研究生 2名

## **(2) 行事实施状況（セミナー、研修、合宿、調査など）**

平成28年度 倫理学研究室帝釈峡研修合宿 庄原市東城町 平成28年10月29・30日

## 応用哲学・古典学講座（中国思想文化学）

### 1. 平成28年度の組織

有馬 卓也 教授  
市來 津由彦 教授  
末永 高康 准教授

### 2. 教育・研究活動

#### （1）教育活動

##### 〔博士論文〕

なし

##### 〔修士論文〕

上海博物館蔵戦国楚竹書『恆先』の研究  
江戸時代の儒学における職業倫理の特性—石田梅岩を中心にして—

##### 〔卒業論文〕

室鳩巢思想の研究—加賀藩時代を中心に—  
班氏からみた王莽

##### 〔集中講義〕

実施せず

##### 〔外国人留学生・研究生等の受け入れ〕

平成26年度 4名（中華人民共和国。正規院生1名、交流協定2名、研究生1名）

#### （2）研究活動

##### 〔研究発表会等〕

- ・卒論・修論中間発表会、卒論面接講評会、卒論・修論発表会（以上卒業予定生・修了予定生）
- ・卒論研究テーマ発表会（学部3年生）

##### 〔学会開催〕

なし

### 3. トピックス

#### （1）入学（分属）・卒業・就職・留学状況

##### 〔入学（分属）〕

学部 3名 博士課程前期 1名 博士課程後期 2名

##### 〔編入学〕

1名

##### 〔卒業・修了〕

学部2名 博士課程前期2名

##### 〔就職〕

学部 2名（民間1、教員1） 博士課程前期 1名

[進学]

学部 0名

博士課程前期 1名

[留学]

0名

[外国人留学生・研究生等在籍状況（年度末）]

学部 0名 博士課程前期 0名 博士課程後期 1名

研究生 1名 特別研究生・特別聴講生 1名

(2) その他

[教員免許状更新講習会]

平成28年度「日本・中国の語学・文学・思想」

(教育の充実に関する事項。日本文学語学・中国文学語学分野教員3名と共同)

・市來 津由彦「漢文」とはなにか」

[公開講座]

実施せず

# 歴史文化学講座

## 1. 講座の教員構成

勝部 真人 教授 (日本史学)  
中山 富廣 教授 (日本史学)  
本多 博之 教授 (日本史学)  
金子 肇 教授 (東洋史学)  
八尾 隆生 教授 (東洋史学)  
井内 太郎 教授 (西洋史学)  
前野 弘 教授 (西洋史学)  
舩田 善之 准教授 (東洋史学) 平成 28 年 10 月 1 日着任  
足立 孝 准教授 (西洋史学)  
Nguyễn Tiên Lực 特任教授 (東洋史学) 平成 28 年 9 月 1 日着任、同 11 月 30 日離任

## 2. 講座の運営

### (1) 運営体制

講座主任：八尾 隆生

分野世話人 日本史学分野：中山 富廣  
東洋史学分野：金子 肇  
西洋史学分野：井内 太郎

### (2) 講座会議（含むプログラム教員会）の開催

第 1 回：4 月 8 日 第 2 回：6 月 25 日 第 3 回：7 月 22 日 第 4 回：7 月 11 日  
第 5 回：9 月 19 日 第 6 回：10 月 29 日 第 7 回：12 月 19 日 第 8 回：1 月 30 日  
第 9 回：3 月 6 日

## 3. 重点的に取り組んだ事項や特記すべき事項

### (1) 教育

学生・教員国際交流のための PEACE PROGRAM に勝部真人教授と八尾教授が参加し、ヴェトナム国家大学ハノイ校所属人文社会科学大学およびホーチミン市校所属人文社会科学大学との部局間協定を結ぶ際の橋渡し役となった。3 月 5 日～9 日のキックオフ・ミーティングにおいても両校から教員・学生各二名を受け入れた。

### (2) 研究

本講座配属の教員のほぼ全員が広島史学研究会及び中国四国歴史学地理学協会の事務局作業に携わっており、それぞれ二日間にわたる研究大会を運営した。（エビデンス：雑誌『史学研究』296 号（2017 年）、『中国四国歴史学地理学協会年報』13 号（2017 年））  
日本史学分野では勝部真人教授が 9 月 10 日文研瀧井一博班の合宿研究会と、11 月 12 日

関西農業史研究会で報告を行った。

中山教授は中塚武教授（総合地球環境科学研究所）が組織する共同研究プロジェクトに参加し報告を行った。共同研究の成果である論文集の刊行が予定されている（エビデンス：<http://www.chikyu.ac.jp/nenrin/newsletter/>）

本多教授は東大史料編纂所他二者共同研究「石見の中世領主の盛衰と東アジア海域世界一御神本一族を軸に一」で共同検討会および各種文書調査を実施した（エビデンス：『島根県古代文化センター研究論集』『石見の戦国武将 - 戦乱と交易の中世 - 』展図録、近刊）

東洋史学分野では金子教授が科研基盤研究（C）補助金により、中国・上海市档案馆で二度にわたり史料調査を実施するとともに、浙江工商大学で開催された国際学術シンポで報告を行った（エビデンス：《近代中国与東亜：新史料与新視点》学術研究会報告冊）

八尾教授は科研基盤研究（B）補助金により、ヴェトナム国家大学との合作でタインホア省での村落調査を行い、第5回国際ヴェトナム学学会で報告を行った（エビデンス：<http://icvs2016.vnu.edu.vn/home/>）。

船田准教授は国際共同研究プロジェクト *Intralingual Translation, Diglossia, and the Rise of Vernaculars in East Asian Classical and Premodern Cultures* に参加し、パリで開催されたワークショップにおいて報告を行った（エビデンス：<https://intraling-asia.sciencesconf.org/>）。

西洋史学分野では井内太郎教授が科研基盤研究（B）補助金により、連合王国のロンドン大学歴史研究所で研究会報告を行い、またイギリス図書館、イギリス国立公文書館において史料調査を行った。

前野教授は、科研基盤研究（C）補助金により、10月7日に、広島大学文学研究科において、レバノン文化省考古総局のナーデル・シクラウィ Nader Siklaoui 氏を招聘し、講演会「レバノンにおける考古学的発掘調査の戦略：バイルートとティール」を主催した。

足立准教授は、科研基盤研究（C）補助金により、アラゴン連合王国文書館（バルセロナ）およびテルエル県立歴史文書館（テルエル）において約3週間にわたり史料調査を行った（エビデンス：『西洋史学報』掲載論文・近刊）。

### **(3) 社会連携**

広島県立図書館と共催で、広島大学地域アカデミー2016を開催し、平成28年11月12日と13日の二日にわたり、一般聴衆を対象に足立孝准教授と本多博之教授が世界記憶遺産にちなむ公開講演会を組織し、聴衆との質疑応答をも行っている。

（エビデンス：<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/219827.pdf>）

その他、日本史学分野の教員3人が『福山市史 古代から現代まで』の編集・執筆・監修を行った。

### **(4) その他**

## 歴史文化学講座（日本史学）

### 1. 平成28年度の組織

日本中世史 本多博之 教授  
日本近世史 中山富廣 教授  
日本近代史 勝部真人 教授

### 2. 教育・研究活動

#### (1) 教育活動

##### 〔卒業論文〕

- 「聖武治世下の優婆塞と浄行」
- 「『忌日』記述を視点とした平安時代中期における貴族間の交流」
- 「厳島神社における大内氏・毛利氏の刀剣奉納」
- 「浦上宗景の美作国支配」
- 「豊臣期における小早川隆景の伊予統治」
- 「島津義弘『名代』考」
- 「文禄・慶長期における毛利氏の奉行人」
- 「文禄・慶長の役と毛利輝元」
- 「戦国期における大友氏の領国支配」
- 「城下町松江の変遷—奥谷を中心に—」
- 「寛政四年雲仙普賢岳大噴火と島原藩社会」
- 「幕末期神辺本陣における休泊の実態」
- 「近世・近代における広島湾岸部の新開開発と土地利用」
- 「幕末大洲藩武成隊の事績と意義について」
- 「明治初期における私塾教育の展開—備後晩香館を事例に—」
- 「明治初期奄美経済の再編成過程—糖業を中心に—」
- 「広島県深沼漁業組合伝習船『深沼丸』に見る朝鮮出漁の実態」
- 「戦間期の今治綿織物業盛衰と金融機関」
- 「島根県における名望家の社会貢献活動—飯石郡田部家を事例として—」
- 「明治・大正期の備後沼隈地方における青年団体の活動」
- 「大正期における灘酒造業の持続的発展」
- 「近代広島県における農業生産力に関する—考察—豊田郡柳井家を事例として—」
- 「昭和戦前期の山口県における『政友王国』基盤の動揺」
- 「阿蘇国立公園の設立と久住地域」
- 「高度経済成長におけるダム建設反対運動—大分・熊本両県境の下笠・松原ダム建設を例に—」

「戦後ブラジル移民における広島県人会の機能について」

〔修士論文〕

「南北朝・室町期における小早川総領家と庶子家」

「十五世紀の朝鮮通交者と交易品」

「戦国期大友氏の対幕府外交」

「豊臣政権下の徳川家康・秀忠」

「明治から昭和前期の地方資産家の資産運用について」

『主婦之友』にみられる大正期～昭和初期における生活改善運動」

「復員事業における旧軍人の意識と役割」

〔博士論文〕

『満洲国』における農事改良と普及」

**(3) 研究活動**

2016年度修士論文・卒業論文中間発表会 平成28年11月23・26日

**3. トピックス**

**(1) 入学・卒業・就職・留学状況**

〔入学（分属）〕

学部 28名、博士課程前期 8名、博士課程後期 1名

〔編入学〕

2名

〔卒業・修了〕

学部 26名、博士課程前期 7名、博士課程後期 1名、QE2 1名

〔研究生〕

2名

〔就職〕

学部 18名（民間12、公務3、教員3）、博士課程前期 2名

博士課程後期 0名

〔進学〕

学部 8名、博士課程前期 4名

〔留学〕

0名

〔外国人留学生・研究生等在籍状況（年度末）〕

学部0名 博士課程前期2名 博士課程後期2名 研究生2名

特別研究生・特別聴講生2名

**(2) 行事実施状況（セミナー、研修、合宿、調査など）**

## 歴史文化学講座（東洋史学）

### 1. 平成28年度の組織

中国近代史 金子 肇 教授

東南アジア史 八尾隆生 教授

中国前近代史 船田善之 准教授 平成28年10月1日着任

東南アジア史 Nguyễn Tiên Lược 特任教授 平成28年9月1日着任、  
同11月30日離任

### 2. 教育・研究活動

#### (1) 教育活動

##### 〔卒業論文〕

「『大南列伝』編纂に関する一考察」

「敦煌における牧畜産品の流通と人々の暮らし」

「中華民国期の山東省における泰山及び東嶽廟の信仰」

「戦後インドネシア文学に見る日本占領の記憶」

「戦後シンガポールにおける華人のアイデンティティ再考」

「1920～30年代の『良友』画報にみる「運動会」」

「清末民初における検屍制度改革とその背景」

「日中戦争期中国の抗戦演劇運動 — 福建省を対象に —」

##### 〔修士論文〕

「元朝末期の処州における士人層の自衛活動」〔博士論文〕

##### 〔博士論文〕

該当者なし

##### 〔集中講義〕

太田出（京都大学 教授）「中国社会史研究A」

#### (2) 研究活動

2016年度第1回卒業論文中間発表会 平成28年6月17日

2016年度第2回卒業論文中間発表会 平成28年12月1日

2016年度卒業論文発表会 平成29年2月9日

2017年度卒業生対象卒業論文相談会 平成29年2月3日

### 3. トピックス

#### (1) 入学・卒業・就職・留学状況

##### [入学(分属)]

学部 1名、博士課程前期 2名、博士課程後期 0名

##### [編入学]

0名

##### [卒業・修了]

学部 8名、博士課程前期 1名、博士課程後期 0名

##### [研究生]

1名

##### [就職]

学部 6名(民間 2名、公務員 2名、教員 2名)

博士課程前期 0名、博士課程後期 0名

##### [進学]

学部 2名、博士課程前期 1名

##### [留学]

1名

##### [外国人留学生・研究生等在籍状況(年度末)]

学部 0名、博士課程前期 3名、博士課程後期 1名、研究生 1名

#### (2) 行事実施状況(セミナー、研修、合宿、調査など)

なし

# 歴史文化学講座（西洋史学）

## 1. 平成28年度の組織

井内 太郎 教授  
前野 弘志 教授  
足立 孝 准教授

## 2. 教育・研究活動

### (1)教育活動

#### 〔卒業論文〕

- 「ローマ帝政期におけるコレギアと公共奉仕—collegium fabri tignuarii Ostiensium を中心として「—」
- 「近世ヨーロッパの海外進出と海図の発展」
- 「18世紀のイギリスにおける東インド貿易とネイボップ」
- 「18世紀オーストリアにおける中央集権化と文化政策」
- 「中世ノルマン・シチリア王国における中央行政と地方統治」
- 「13-15世紀イベリア半島におけるムスリムとキリスト教徒～なする朝グラナダ王国とカスティーリャ王国の「交流」を中心として～」
- 「中世シャンパーニュ都市プロヴァンにおける市政制度～コミュニオン体制下の都市運営～」
- 「ドイツ統一期における海軍改革とその意義」
- 「近世ドイツにおける巡礼・教会と居酒屋」
- 「1960年代アメリカにおけるニューレフトと学生運動」
- 「13世紀パリ大学とソルボンヌ学寮」
- 「自由国家時代アイスランド社会の形成と発展～血讐による平和維持の機構～」
- 「クリュニー修道院における領主的特権の成立と展開」
- 「近世ヨーロッパの祝祭と民衆文化～クリスマスの祝祭認識の変遷を中心として～」
- 「17-18世紀イングランドにおけるケルト観」
- 「東地中海における古代から中世への転換」
- 「古典期アテナイ民主政と海軍での奴隷使用」
- 「10-12世紀アンダ留守と地中海商業～商人、商品、港湾都市の機能を中心に～」
- 「13世紀カスティーリャ王国における王権と文化事業」

〔修士論文〕

「中世盛期バイエルン貴族の文書管理とその利用～『ファルケンシュタインの書を中心に～』

〔博士論文〕

該当者なし

〔集中講義〕

飯田洋介(岡山大学 准教授)「ヨーロッパ政治文化史研究・欧米社会構造論研究」

**(3) 研究活動**

2016年度卒業論文発表会 平成29年2月4日

**3. トピックス**

**(1) 入学・卒業・就職・留学状況**

〔入学（分属）〕

学部 12名、博士課程前期 1名、博士課程後期 1名

〔編入学〕

1名

〔卒業・修了〕

学部 20名、博士課程前期 1名、博士課程後期 0名

〔研究生〕

0名

〔就職〕

学部 13名（民間7、公務4、教員2）、博士課程前期 1名  
博士課程後期 0名

〔進学〕

学部 4名、博士課程前期 0名

〔留学〕

3名

〔外国人留学生・研究生等在籍状況（年度末）〕

学部 0名 博士課程前期 0名 博士課程後期 0名 研究生 0名  
特別研究生・特別聴講生 1名

**(2) 行事実施状況（セミナー、研修、合宿、調査など）**

平成28年大学院セミナー合宿 岡山県倉敷市 平成28年8月

# 日本・中国文学語学講座

## 1. 講座の教員構成

有元 伸子 教授 (日本文学語学)  
小川 恒男 教授 (中国文学語学)  
久保田啓一 教授 (日本文学語学)  
妹尾 好信 教授 (日本文学語学)  
松本 光隆 教授 (日本文学語学)  
川島 優子 准教授 (中国文学語学)  
下岡 友加 准教授 (日本文学語学) 平成 28 年 10 月 1 日着任  
陳 獅 准教授 (中国文学語学)

## 2. 講座の運営

### (1) 運営体制

講座主任：有元 伸子  
分野世話人 日本文学語学：妹尾好信  
中国文学語学：小川恒男

### (2) 講座会議（含むプログラム教員会、メール審議\*、世話人会議#）の開催

第 1 回：4 月 29 日# 第 2 回：6 月 3 日\* 第 3 回：6 月 27 日\*  
第 4 回：7 月 11 日# 第 5 回：8 月 1 日# 第 6 回：9 月 5 日#  
第 7 回：10 月 13 日# 第 8 回：11 月 15 日\*# 第 9 回：12 月 1 日#  
第 10 回：2 月 15 日 第 11 回：2 月 25 日

## 3. 重点的に取り組んだ事項や特記すべき事項

### (1) 教育

○日本文学語学分野では、各教員が主宰する研究会が毎週開かれ、学部 3・4 年生と大学院生が所属して、相互の質疑応答と指導教員による助言・指導を実施している。

(エビデンス：<http://home.hiroshima-u.ac.jp/kokubun/sub5.html> )

○中国文学語学分野では、各教員が主宰する研究会が毎週開かれ、学部 4 年生と大学院生が所属し、演習形式で作品を読解した上で、相互の質疑応答と指導教員による助言・指導を実施している。

(エビデンス：<http://home.hiroshima-u.ac.jp/cbn/index.html> )

○中国文学語学分野では、月 1 回、広島大学附属中・高等学校で漢文教育研究会懇話会を開催し、年 1 回、広島大学附属中・高等学校で漢文教育研究会研究大会を開催しており(2016 年度は 12 月 2 日)、教員を志望する大学院生や学部生が参加している。

(エビデンス：<http://home.hiroshima-u.ac.jp/kanbun/goaisatu.html> )

## (2) 研究

○日本文学語学分野の教員が事務局となり、広島大学国語国文学会が組織されている。研究集会を年1回開催するとともに（2016年度は7月9日）、学会誌『国文学攷』を年4冊刊行している（2016年度は、第230～233号）。

（エビデンス：<http://home.hiroshima-u.ac.jp/kokubun/sub7.html>

[http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/ja/list/HU\\_journals/AN00090146/--](http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/ja/list/HU_journals/AN00090146/--)）

○中国文学語学分野では中国中世文学会を組織し、月1回の研究会と年1回の研究大会を開催し、学会誌「中国中世文学研究」を年2冊刊行している（2016年度は第68・69号）。

（エビデンス：<http://home.hiroshima-u.ac.jp/cbn/index.html>）

○中国文学語学分野では広島中国文学会を組織し、学会誌「中国学研究論集」を年1冊刊行している（2016年度は第34号）。

（エビデンス：<http://home.hiroshima-u.ac.jp/cbn/index.html>）

○講座の各教員が事務局となって、研究誌を発行している。

・広島近世文学研究会『鯉城往来』（2016年度は、第19号）

・広島大学近代文学研究会『近代文学試論』（2016年度は、第54号）

（エビデンス：<http://home.hiroshima-u.ac.jp/kindai/right/contents/papers%20current.html>）

## (3) 社会連携

○講座の教員は、広島大学大学院文学研究科・NPO法人「本の学校」主催の「文藝学校」講演会に毎年協力をしており、2016年度は妹尾好信教授が「『和泉式部』の不思議」の題目で講演を行った（7月18日、鳥取県米子市「本の学校」）。

（エビデンス：<https://www.hiroshima-u.ac.jp/news/35894>）

○平成25年11月28日から現在に至るまで、陳獅准教授が、『中国新聞』の「ヒロシマ平和メディアセンター」サイトの中国語監修を行っている。

（エビデンス：<https://lucian.uchicago.edu/blogs/atomicage/category/%e4%b8%ad%e6%96%87/>）

## (4) その他

# 日本・中国文学語学講座（日本文学語学）

## 1. 平成28年度の組織

有元 伸子 教授（日本近現代文学）  
久保田啓一 教授（日本近世文学）  
妹尾 好信 教授（日本古代中世文学）  
松本 光隆 教授（日本語学）  
下岡 友加 准教授（日本近現代文学） 平成28年10月1日着任

## 2. 教育・研究活動

### (1) 教育活動

#### 〔卒業論文〕

- 「村上春樹研究—「書く」身体と書かれる「身体」—」  
「吉田知子研究—「のっぺらぼう」の世界を見つめる眼—」  
「村上龍研究—初期三部作における「暴力」・「破壊」・「戦争」の存在—」  
「井原西鶴の研究」  
「『平家物語』平知盛考」  
「『平家物語』平重盛研究—忠孝思想の観点から—」  
「小泉八雲の『古事記』観—チェンバレンの英訳の影響を中心に—」  
「藤原成通の人物像について—蹴鞠に焦点を当てて—」  
「伊勢物語の和歌についての研究」  
「『古事記』教材化についての研究—英雄譚の文学性への視点から—」  
「綿矢りさ研究—物語の場と女同士の関係性—」  
「ネット小説研究—「小説家になろう」のテンプレートから見る現在のネット小説—」  
  
「鹿児島方言の使用実態に関する研究—特に「気づかない方言」に注目して—」  
「大岡昇平研究—『野火』映画化がもたらしたもの—」  
「村上春樹研究 「三・一一」のあとのコミットメント—『色彩をもたない田崎つくと、彼の巡礼の年』—」  
「『百人一首』和泉式部歌の研究」  
「横光利一研究—〈マルキシズムとの格闘時代〉からの脱却—」  
「寺山修司研究—評論における〈犯罪〉—」  
「芥川龍之介と犬」  
「「日本人」のコノテーションに関する計量分析」  
「為永春水研究」  
「二者間の会話における非言語要素の研究」  
「異類恋愛譚における狐の研究—「木幡狐」を中心に—」

#### 〔修士論文〕

#### 〔修士論文〕

「井伏鱒二研究—復員者たちとその周辺」  
『浜松中納言物語』研究—〈みをかふ〉表現に着目して—  
「加能作次郎研究—「芸術的境地」が切り拓いた可能性—」  
「馬場文耕「近世江都著聞集」研究」  
「森鷗外研究—「雁」における漢文学—」  
『式子内親王集』研究—百首歌における物語受容を中心として—  
「井伏鱒二「黒い雨」研究—非被爆作家が直面する被爆者差別—」  
「病因となる「鬼」の研究—鬼神の祟りに基づく〈想像の世界〉への解読—」  
『源氏物語』と『うつほ物語』の影響関係—「早蕨」の巻の「宿をば離れじと思ふ心」は引歌か—  
「九条本『文選』における文体差の比較研究—賦と詩の読み添え語を中心に—」  
「遠藤周作『死海のほとり』研究—フランクフルトと響きあう世界—」  
「鴨長明研究—『方丈記』『無名抄』『発心集』を横断して—」  
『平家物語』研究—能登守教経を中心に」  
【博士論文】  
『源氏物語』の研究—物語空間へのアプローチ—」

### (3) 研究活動

修士論文要旨発表会（2016年度）7月23日、1月21日  
大学院研究発表会（2016年度）6月25日、7月23日、10月29日、11月12日、12月10日、1月21日  
卒業論文中間発表会（2016年度）12月2日  
学部3年生研究発表会（2016年度）7月2日、12月3日

## ③: トピックス

### (1) 入学：卒業：就職：留学状況

#### 〔入学（分属）〕

学部 25名、博士課程前期 11名、博士課程後期 6名

#### 〔編入学〕

0名

#### 〔卒業・修了〕

学部 23名、博士課程前期 13名、博士課程後期 1名

#### 〔就職〕

学部 17名（民間9、公務員6、教員2）、

博士課程前期 7名 博士課程後期 0名

**[進学]**

学部 4名、博士課程前期 2名

**[留学]**

0名

**[外国人留学生・研究生等在籍状況（年度末）]**

学部 0名 博士課程前期 9名 博士課程後期 6名 研究生 0名

**(2) 行事实施状況（セミナー、研修、合宿、調査など）**

なし

## 日本・中国文学語学講座（中国文学語学）

### 1. 平成28年度の組織

小川恒男 教授  
川島優子 准教授  
陳 翀 准教授

### 2. 教育・研究活動

#### (1) 教育活動

##### 〔卒業論文〕

『水滸伝』の入回詩

「何遜の詩について」

##### 〔修士論文〕

該当者なし

##### 〔博士論文〕

該当者なし

##### 〔集中講義〕

内山精也（早稲田大学 教授）「中国文学語学特講B」「中国文学特殊講義」

#### (3) 研究活動

2016年度修士論文（9月修了）最終発表会・修士論文構想・中間発表会

平成28年6月27日

2016年度卒業論文中間発表会Ⅰ 平成28年7月26日

2016年度卒業論文中間発表会Ⅱ 平成28年11月29日

2016年度修士論文構想・中間発表会Ⅰ・Ⅱ 平成28年12月16日

2016年度修士論文（3月修了）最終発表会 平成29年1月30日

2016年度卒業論文最終発表会 平成29年2月10日

### 3. トピックス

#### (1) 入学・卒業・就職・留学状況

##### 〔入学（分属）〕

学部6名、博士課程前期4名、博士課程後期1名

##### 〔編入学〕

1名

##### 〔卒業・修了〕

学部 2 名、博士課程前期 2 名、博士課程後期 0 名

**〔就職〕**

学部 2 名（民間 0、公務 1、教員 1）、博士課程前期 0 名

博士課程後期 0 名

**〔進学〕**

学部 0 名、博士課程前期 1 名

**〔留学〕**

1 名

**〔外国人留学生・研究生等在籍状況（年度末）〕**

学部 3 名 博士課程前期 4 名 博士課程後期 2 名 研究生 0 名

特別研究生・特別聴講生 1 名

## 欧米文学語学・言語学講座

### 1. 講座の教員構成

- 新田 玲子 教授 (アメリカ・イギリス文学)  
吉中 孝志 教授 (アメリカ・イギリス文学)  
今林 修 教授 (英語学)  
小林英起子 教授 (ドイツ文学語学)  
宮川 朗子 教授 (フランス文学語学)  
今田 良信 教授 (言語学)  
大地 真介 准教授 (アメリカ・イギリス文学)  
倉田 賢一 准教授 (アメリカ・イギリス文学)  
大野 英志 准教授 (英語学)  
今道 晴彦 准教授 (ドイツ文学語学)  
上野 貴史 准教授 (言語学)  
古川 昌文 助教 (ドイツ文学語学)  
奥村真理子 助教 (フランス文学語学)  
松本 舞 助教 (アメリカ・イギリス文学)  
D. ヴァリンズ 教授 (アメリカ・イギリス文学)  
L. フェーダーマイアー 教授 (ドイツ文学語学)  
O. ロリヤール 准教授 (フランス文学語学)

### 2. 講座の運営

#### (1) 運営体制

講座主任：小林英起子

分野世話人：英米文学分野：吉中 孝志

ドイツ文学語学分野：小林 英起子

フランス文学語学分野：宮川 朗子

言語学分野：今田 良信

#### (2) 講座会議(含む主専攻プログラム教員会)の開催

時間帯を固定して以下のように会議を開き、この他にメール審議も行ない、すみやかに意思疎通を図った。講座運営は円滑に行われた。

第1回 5月11日、第2回 6月29日、第3回 7月27日、第4回 10月26日

第5回 11月16日、第6回 11月30日、第7回 1月18日、第8回 2月15日

### 3. 重点的に取り組んだ事項や特記すべき事項

#### (1) 教育

少人数教育によって密度の高い教育効果をあげている。英語はもとよりドイツ語やフランス語等外国語による授業の増加で、TOEIC、TOFUL、各種語学試験にも示される通り学生の外国語運用能力が高まり、大学院博士課程前期への進学や外国大学への留学に繋がっている。英国エクセター大学英語研修では今林教授が、スイスのローザンヌ大学夏季フランス語研修では宮川教授が世話役を努め、学生の語学研修を推進している。ハンブルク大学夏期講習にも学生の積極的な参加があった。学部段階からの海外語学研修が教育のグローバル化・国際化の面において成果をあげている。

#### (2) 研究

構成員は、中四国地方や国内の英文学会、アメリカ文学会、英語学学会、独文学会、仏文学会や言語学学会での研究活動のみならず、海外においても活発な文献調査や研究活動を展開している。国際会議や国際学会でも積極的に研究発表を行なっている。英国、ブレーメン大学、カイロ大学の研究者を7名招聘して学術講演会やシンポジウムを開催したり、米国、英国、ドイツ、フランス、エジプトはじめ海外の研究者との研究交流を推進した。

(主なエビデンス: 中・四国アメリカ文学会 <http://www.chushi-als.org/index.html>  
広島大学英文学会 <http://home.hiroshima-u.ac.jp/phoenix/hsell/backnumber.html>  
広島大学フランス文学会 <http://home.hiroshima-u.ac.jp/france/frenchjp.html>  
西日本言語学会 <http://home.hiroshima-u.ac.jp/nidaba/nidavatop.html>  
広島独文学会 <http://hiroshimadeutsch.web.fc2.com/index.html> 詳細は分野・教員の活動状況の頁参照。)

### (3) 社会連携

社会貢献活動として、第14回「文藝学校」講演会を以下のように実施した。

開催日時：平成28年7月18日(日) 10:30-16:00

場所：「本の学校」今井ブックセンター2階多目的ホール(鳥取県米子市新開2-3-10)

講師と講演題目：

1. 小川 陽子(松江工業高等専門学校 講師)「米子のお寺が小説に 一鳥取出身の国文学者・池田亀鑑一」
2. 妹尾 好信(日本・中国文学語学講座 教授)「『和泉式部日記』の不思議」
3. 今林 修(欧米文学語学・言語学講座 教授)「英語の歴史は面白い」
4. 勝部 真人(歴史文化学講座 教授)「ムラ社会は“悪”なのか?! —「ムラの日本史」＝中国との対比のなかで—」

また、平成28年度教員免許状更新講習会を以下のように実施した。

講習会：『【選択】異文化を学ぶために』 科目：異文化理解

主な受講対象者：中・高「外国語(英語・ドイツ語・フランス語)」教諭

開催日時：平成28年8月30日(火) 9:00-17:00 場所：広島大学文学研究科

担当講師および講習内容

1. 今田 良信(欧米文学語学・言語学講座 教授)「言語による外界の範疇化と異文化理解」
2. 今道 晴彦(欧米文学語学・言語学講座 准教授)「ドイツにおける言語政策」
3. 新田 玲子(欧米文学語学・言語学講座 教授)「英語の中の異文化を窺う」

### (4) その他

分野ごとに原書の読書会や研究会が行なわれた。詳細は分野の頁を参照。松本舞助教は、コンソーシアム教員として平成28年度後期、島根大学において研究活動(ラボローテーション)を行なった。

## 欧米文学語学・言語学講座（アメリカ・イギリス文学）

### 1. 平成28年度の組織

アメリカ文学	教授	新田 玲子
	准教授	大地 真介
イギリス文学	教授	吉中 孝志
	教授	ヴァリンズ ディビット マクニール
	准教授	倉田 賢一
	助教	松本 舞
教育研究補助職員		CONTI SARA

### 2. 教育・研究活動

#### (1) 教育活動

##### [卒業論文]

The Depiction of Jane Austen's Society in Three Film Versions of *Pride and Prejudice*

The Things Carried by the Gap between Ideal and Reality in Vietnam

A Study of *Gone with the Wind*: Margaret Mitchell's View of New America

Joe Christmas's Identity Crisis in William Faulkner's *Light in August*

The Western Humanity in Relation to Their Land in *The Grapes of Wrath*

A Feminist Reading of *Silas Marner*

The Mazed Worlds of Shakespeare's *A Midsummer Night's*

*Dream*: the Stage Effects of Fairies

Absolute Love between Heathcliff and Catherine in *Wuthering Heights*

Nick Caraway's Viewpoints in *The Great Gatsby* and Its Film Versions

Representations of Homosexuality in Oscar Wild's *The Importance of Being Earnest*

The Distinctive Characteristics of Little Women as Children's Literature

The Relation between the Loss of Identities and the Meaning of Writing in *The Locked Room*

##### [修士論文]

Economic Imageries in Shakespeare's *Sonnets*

The Shackles of the Old South in William Faulkner's *Light in August*

the Identity Crisis of Joe Christmas and Gail Hightower  
Introspection and Healing in Alice Walker's *Possessing the Secret of Joy*  
Reading Roald Dahl with Roald Dahl: Aspects of His Transformation

〔博士論文〕

アリス・ウォーカーの長編小説における暴力への対応

〔集中講義〕平成28年度 開講科目なし

(2) 研究活動

〔読書会／発表会／研究会〕 修論発表会（6月）

〔招待講演〕 Professor Peter Sabor による"Portraiture as Misrepresentation in the  
Novels and Early Writings of Jane Austen"（於 広島大学）11月16日

〔シンポジウム／学会／講演会〕 日本英文学会（於 京都大学）5月28日、29日  
中・四国アメリカ英文学会第45回大会（於 広島経済大学）6月11日、12日  
日本アメリカ文学会（於 ノートルダム清心女子大学）10月1日、2日  
日本英文学会中四国支部（於 愛媛大学）10月29日、30日  
中・四国アメリカ文学会冬季大会（於 愛媛大学）12月3日

〔研究会誌／学会誌／機関誌〕 『英語英文學研究』（広島大学英文学会、毎年3月）、  
『PHOENIX』（広島大学文学研究科英文学会、毎年5月）

### 3. トピックス

(1) 入学・卒業・就職・留学状況（学部については、英語学分野を含む）

〔入学（分属）〕

学部26名、博士課程前期3名、博士課程後期3名

〔編入学〕

0名

〔卒業・修了〕

学部29名、博士課程前期4名、博士課程後期1名

〔研究生〕

0名

〔就職〕

学部21名（民間13、公務3、教員5）、博士課程前期2名、博士課程後期1名

〔進学〕

学部5名、博士課程前期0名、博士課程後期0名

〔留学〕

学部8名、博士課程前期0名、博士課程後期1名

〔外国人留学生・研究生等在籍状況（年度末）〕

学部0名、博士課程前期0名、博士課程後期1名、研究生0名

**(2) 行事实施状況（セミナー、研修、合宿、調査など）**

宮島ハイキング（大学院） 毎年4月

読書会（学部） 毎年9月末3日間

## 欧米文学語学・言語学講座（英語学）

### 1. 平成28年度の組織

英語学 教授 今林 修  
          准教授 大野 英志  
教育研究補助職員 CONTI SARA

### 2. 教育・研究活動

#### (1) 教育活動

##### [卒業論文]

Correlation of Perspectivism and Depth of Narrative Eye in *To the Lighthouse*

Pip's Realization of the True Worth through his Upward Social Mobility in *Great Expectations*

Expressions of Request in *The Merchant of Venice*

The Use of Modal Auxiliaries in *Pride and Prejudice*

A Study of the Ideal Gentleman from the Viewpoint of Emma and the Three Gentlemen

The Rhetoric and Style of the Presidential Speech

The Use of do in Shakespeare: With Special Reference to *As You Like It* and *Macbeth*

A Comparative Study of the Style of *Charlie and the Chocolate Factory*

Linguistic Characterisation in *Persuasion*

The Use of Prepositions in Shakespeare's *Romeo and Juliet*

Negative Expressions in *King Lear*

The Use of Relative Pronouns in Shakespeare: With Special Reference to *The Tempest* and *Macbeth*

The Image of the Ideal Woman and Inner Growth of Mind of Harriet and Emma

Some Social Changes Represented in Disney's Princess Stories

A Comparative Study between English and Japanese Fairy Tales

A Stylistic Approach to the Inner Growth of Heathcliff

The Language of the Workmen in *A Midsummer Night's Dream*

##### [修士論文]

The Use of Modal Auxiliaries in *Pride and Prejudice*

〔博士論文〕 該当者なし

〔集中講義〕 平成 28 年度 開講科目なし

## (2) 研究活動

〔読書会／発表会／研究会〕 読書会（月 4 回）、修論発表会（6 月）、広島英語研究会月例会（休暇中以外の各月）、第 57 回夏季英語研究会（平成 28 年 8 月 7 日～8 日）

〔シンポジウム／学会／講演会〕 Workshops in English Phonetics（平成 28 年 9 月 12 日）、Hiroshima Seminar on English Historical Syntax（平成 28 年 9 月 3 日）

〔研究会誌／学会誌／機関誌〕

広島英語研究会機関誌 ERA Vol.34, Nos. 1&2（平成 29 年 3 月刊行）

広島大学英文学会機関誌『英語英文學研究』第 61 卷（平成 29 年 3 月刊行）

広島大学文学研究科英文学会 PHOENIX No. 74（平成 29 年 3 月刊行）

## 3. トピックス

### (1) 入学・卒業・就職・留学状況（学部については、アメリカ・イギリス文学分野を含む）

〔入学（分属）〕

学部 26 名、博士課程前期 3 名、博士課程後期 3 名

〔編入学〕

0 名

〔卒業・修了〕

学部 29 名、博士課程前期 1 名、博士課程後期 0 名

〔研究生〕

1 名

〔就職〕

学部 21 名（民間 13、公務 3、教員 5）、博士課程前期 0 名、博士課程後期 0 名

〔進学〕

学部 5 名、博士課程前期 0 名

〔留学〕

学部 8 名、博士課程前期 0 名、博士課程後期 0 名

〔外国人留学生・研究生等在籍状況（年度末）〕

学部 0 名、博士課程前期 0 名、博士課程後期 1 名、研究生 1 名

### (2) 行事实施状況（セミナー、研修、合宿、調査など）

宮島ハイキング（大学院） 毎年 4 月

読書会（学部） 毎年 9 月末 3 日間

## 欧米文学語学・言語学講座（ドイツ文学語学）

### 1. 平成28年度の組織

ドイツ文学語学 小林英起子 教授  
ドイツ文学語学 レオポルト・フェーダーマイヤー 教授  
ドイツ文学語学 今道晴彦 准教授  
ドイツ文学語学 古川昌史 助教

### 2. 教育・研究活動

#### (1) 教育活動

##### [卒業論文]

「ハインリヒ・ベルのみつめた廃墟—初期短編『長い髪の仲間』『並木道での再会』『商売は商売』に関する考察」

Die Rolle des Spielzeugs in E.T.A. Hoffmanns Märchenerzählung *Das fremde Kind*

「ヘルマン・ヘッセ『車輪の下で』における自己投影と教育批判  
『カタリーナの失われた名誉』から見る 1970年代の西ドイツメディア」

Das „sanfte Gesetz“ in Stifters Erzählung *Katzensilber*

「オーストリア皇妃エリザベート —美の追求と素顔をめぐって—」

##### [修士論文]

「プロイスラー『わたしのリュベツァール物語』とボヘミア伝承に関する一考察」

「R.シューマンの歌曲集『詩人の恋』における H.ハイネのイロニー」

Stilistische Eigentümlichkeiten der Regierungserklärungen deutscher Bundeskanzler von Adenauer bis Merkel. Eine quantitative Analyse ihrer Reden

「グリム童話におけるゲルマン的死生観 —『ドイツ神話学』から照らして—」

Der Wandel von Franz Fühmanns Märchenkonzeption. Eine vergleichende Untersuchung von „Die Suche nach dem wunderbunten Vögelschen“ (1960) und „Doris Zauberbein“ (1982)

##### [博士論文]

該当者なし

##### [集中講義]

在間 進（東京外国語大学 名誉教授）「ドイツ文学語学特別講義 A・ドイツ文学語学特殊講義 A」平成28年9月26日～9月29日

**[学長表彰・エクセレントスチューデント]**

学部 1 名

**[大学院高度化事業]**

ティーチング・アシスタント

梅原ひなた (博士課程前期)

松野友美 (博士課程前期)

**(2) 研究活動**

平成 28 年度卒業論文・修士論文中間発表会

平成 28 年 10 月 29 日

平成 28 年度卒業論文・修士論文発表会

平成 29 年 2 月 11 日

**3. トピックス**

**(1) 入学分属・卒業・就職・留学状況**

**[入学(分属)]**

学部 4 名、博士課程前期 1 名、博士課程後期 0 名

**[編入学]**

0 名

**[卒業・修了]**

学部 6 名、博士課程前期 5 名、博士課程後期 0 名

**[研究生]**

0 名

**[就職]**

学部 5 名 (民間 4、公務 1)、博士課程前期 3 名、博士課程後期 0 名

**[進学]**

学部 0 名、博士課程前期 海外大学 1 名

**[留学、語学研修短期留学を含む]**

留学: 学部 2 名・博士課程前期 1 名、海外語学研修: 学部 3 名

**[外国人留学生・研究生等在籍状況 (年度末)]**

0 名

**(2) 行事实施状況 (セミナー、研修、講演会など)**

広島独文学会 総会・研究発表会(4 名研究発表) 平成 28 年 12 月 10 日

学術講演会 Prof. Dr. Hendrik Birus (Jacobs University, Bremen) 平成 28 年 4 月 1 日

学術講演会 Prof. Dr. Nicole Marx (Universität Bremen) 平成 29 年 3 月 22 日

機関誌「広島ドイツ文学」<http://hiroshimadeutsch.web.fc2.com/index.html>

## 欧米文学語学・言語学講座（フランス文学語学）

### 1. 平成28年度の組織

宮川 朗子 教授  
Olivier Lorrillard 准教授  
奥村 真理子 助教

### 2. 教育・研究活動

#### (1) 教育活動

〔卒業論文〕

『背徳者』における転換のテーマと告白の問題

〔修士論文〕

Le personnage de Frédéric dans *L'Éducation sentimentale* : héros ou simple témoin ?

サルトル『猶予』における時間

マリヴォーの作品における劇中劇

〔博士論文〕

該当者なし

〔集中講義〕

中山智子（京都外国語大学 准教授）「フランス文学特殊講義」

石野好一（新潟大学 教授）「フランス語学講義」

#### (2) 研究活動

2016年度修士論文・卒業論文発表会 平成29年2月11日

### 3. トピックス

#### (1) 入学・卒業・就職・留学状況

〔入学（分属）〕

学部 1名、博士課程前期 0名、博士課程後期 0名

〔編入学〕

0名

〔卒業・修了〕

学部 1名、博士課程前期 3名、博士課程後期 0名

**〔研究生〕**

0名

**〔就職〕**

学部 1名（民間1）、博士課程前期 3名（民間2、教員1）

博士課程後期 0名

**〔進学〕**

学部 0名、博士課程前期 0名

**〔留学〕**

3名

**〔外国人留学生・研究生等在籍状況（年度末）〕**

0名

**(2) 行事实施状況（セミナー、研修、合宿、調査など）**

特になし。

## 欧米文学語学・言語学講座（言語学）

### 1. 平成28年度の組織

今田 良信 教授

上野 貴史 准教授

### 2. 1年間の教育・研究活動

#### (1) 概要

本専門分野は、一般言語学、歴史言語学、理論・応用言語学、対照言語学を教育・研究の主たる柱としている。平成24年度までで教授1名が定年退職し、その後も不補充の状態である。また、平成26年度までで准教授1名が割愛により転出したが、こちらは平成27年度から新たに准教授1名が着任し、苦しいながらもスタッフ2名体制で踏ん張っている。平成28年度は2年次生の分属が例年の2倍強となっており、充実した学生指導や卒業論文指導を展開するためには、今後の教育・研究に向けて不安定な状況からの1日も早い脱却が急がれる。

#### (2) 教育活動

[博士論文]

<平成28年度> なし

[修士論文]

<平成28年度> なし

[卒業論文]

<平成28年度>

「日本語学習者における母語の干渉について－インドネシア母語話者の中間言語の音声に関する考察」

「英単語習得における形態素認識の有用性－高校英単語の形態素分析を通して－」川本駿佑「日本語における推量表現「の」の機能に関する考察」

「広島県方言における使用と伝承の実態について」

「「る言葉」についての考察－現代若者語を中心に－」

「現代日本語における「ぼかし表現」に関する考察－「とか・～みたいな・～って感じ・～的な」を中心として」

#### (3) 研究活動

[発表会]

平成28年度卒論・修論題目発表会 平成28年7月9日

平成28年度卒論・修論中間発表会 平成28年10月28日、29日、30日

平成29年度卒論・修論最終発表会 平成28年2月11日

[シンポジウム・学会・研究会・講演会など]

西日本言語学会第46回講演・研究発表会 平成28年9月10日開催

[学会誌、機関誌など]

西日本言語学会機関誌『ニダバ』第46号 平成29年3月31日付刊行

### **3. 1年間のトピックス**

#### **(1) 入学・卒業・就職・留学状況**

[入学(分属)]

学部 8名、博士課程前期 0名、博士課程後期 0名

[編入学]

0名

[卒業・修了]

学部 6名、博士課程前期 0名、博士課程後期 0名

[就職]

学部 5名(民間3、公務1、教員1)、博士課程前期 0名

博士課程後期 0名

[進学]

学部 0名、博士課程前期 0名

[留学]

6名

[外国人留学生・研究生等在籍状況(年度末)]

学部2名、博士課程前期0名、博士課程後期0名

研究生1名、特別研究生・特別聴講生1名

# 地表圏システム学講座

## 1. 講座の教員構成

岡橋 秀典 教授 (地理学・人文地理学)

奥村 晃史 教授 (地理学・自然地理学)

友澤 和夫 教授 (地理学・人文地理学)

竹廣 文明 教授 (考古学)

野島 永 教授 (考古学)

三浦 正幸 教授 (文化財学)

安嶋 紀昭 教授 (文化財学)

後藤 秀昭 准教授 (地理学・自然地理学)

伊藤奈保子 准教授 (文化財学)

WERNER STEINHAUS 特任准教授 (考古学) 平成 29 年 3 月 31 日離職

## 2. 講座の運営

### (1) 運営体制

講座主任：野島 永

分野世話人 地理学分野：奥村晃史

考古学分野：野島 永

文化財学分野：安嶋紀昭

### (2) 講座会議（含むプログラム教員会）の開催

第 1 回：4 月 18 日 第 2 回：5 月 16 日 第 3 回：6 月 20 日 第 4 回：7 月 11 日

第 5 回：8 月 1 日 第 6 回：9 月 2 日 第 7 回：10 月 3 日 第 8 回：10 月 17 日

第 9 回：11 月 21 日 第 10 回：12 月 19 日 第 11 回：1 月 16 日

第 12 回：2 月 15 日

## 3. 重点的に取り組んだ事項や特記すべき事項

### (1) 教育

地表圏システム学講座すべての授業においてシラバスの英語化を行い、比較考古学演習など英語授業の推進を進めている。また、博士課程リーディングプログラムに 4 名の教員が参画し、グローバル・リーダーの育成に取り組んでいる。本年度は、5 名の LP 大学院生が在籍している。

### (2) 研究

地理学分野では、国際地球理解年 (IYGU) の日本地域活動センターの本部を本年度に設置し (代表：岡橋秀典教授)、計 12 件の会議・シンポジウム等の共催・後援・協賛を実施した (うち国際会議 3 件) (エビデンス：<http://home.hiroshima-u.ac.jp/iygu/about.html>)。

広島大学現代インド研究センターとの共催により、二国間交流事業セミナー「現代インドにおける『包摂的成長』にかかわる経済地理学的研究の推進」（日本学術振興会採択、日本側代表：友澤和夫教授）をインド国デリー大学（インド）との間で、平成28年12月23・24日に文学研究科にて開催した。8名のインド人研究者を招聘し、本学とデリー大学の国際研究交流を促進した（エビデンス：[http://home.hiroshima-u.ac.jp/hindas/2016122324\\_s.html](http://home.hiroshima-u.ac.jp/hindas/2016122324_s.html)）。

考古学分野では、地理科学学会 考古学研究室との共催により、ドイツ国テュービンゲン大学の研究者2名を招聘し、平成28年8月27日に国際会議“Interdisciplinary approaches to Landscape studies: surveying methods using Lidar”（「景観研究の学際的アプローチ：ライダーを使用した測量方法」）を開催した（エビデンス：<http://home.hiroshima-u.ac.jp/kouko/publication/pdf/poster.27.8.2016.new.3.pdf>）。また、岡山オリエント博物館などとの連携調査を継続し、西アジア古代金属器文化に関する理化学的分析をSP-ring8において実施し、これまで知られていなかったバイメタル技術を明らかにすることができた（エビデンス：<https://www.hiroshima-u.ac.jp/news/37931>）。さらに、シュタインハウス・ウェルナー特任准教授が日本考古学の概説書となる書籍 An Illustrated Companion to Japanese Archaeology (Comparative and Global Perspectives on Japanese Archaeology) を上梓し、日本考古学の国際交流に拍車をかける業績をあげた。

文化財学分野では、近世城郭および社寺建築の年代判定と意匠、調査保存に関する研究、国宝・重要文化財指定の美術および工芸品に関する調査研究、東南アジア史における仏教美術の展開などの研究テーマをかかげ、各講演、学会にて発表を行った（広島大学文学研究科研究活動参照）。また、平成28年9月8日、インドネシア国パダン国立大学にて招待講演（伊藤奈保子准教授）“On the Relationship Between Tantric Buddhism in Japan and pre-Islamic Indonesia”（「イスラーム化以前におけるインドネシアと日本の密教の関連性について」）、9日にパダン遺跡の共同調査を行ったほか、平成29年3月2日、フランス国ディドロ大学（Paris-Didrot）にて招待講演（安嶋紀昭教授）“Cours d’initiation à l’histoire de la peinture bouddhique du Japon” および研究会を開催するなど、国際交流に積極的に取り組んでいる。

### (3) 社会連携

地理学分野では、2016年4月に発生した熊本地震に関して、後藤秀昭准教授が中心となり活断層調査を継続的に実施している。その研究成果は国内外の学会、国際誌で学術的に公表されている。加えて熊本県庁・熊本市役所等の自治体に情報を提供するとともに、震災からの復興に関して意見交換を行うなど地域社会に大いに貢献している（エビデンス：[https://www.hiroshima-u.ac.jp/kumamoto\\_earthquake](https://www.hiroshima-u.ac.jp/kumamoto_earthquake)）。また、日本学術会議連携会員（奥村晃史教授）、日本学術振興会学術システム研究センター研究員（岡橋秀典教授）、

国土交通省国土地理院全国活断層帯情報整備検討委員会委員（後藤秀昭准教授）なども務めている。

文化財学・考古学分野では、愛媛県文化財保護審議会委員をはじめ、原爆ドーム、上田城、名古屋城、赤穂城、松山城等多数の国指定史跡に関する委員を兼任（三浦正幸教授）、広島県文化財保護審議会委員（伊藤奈保子准教授）、広島市文化財審議会委員（安嶋紀昭教授・三浦正幸教授・野島永教授）を務めるなど、多くの文化財審議に関わり、地域社会に貢献している。（広島大学文学研究科社会活動参照）

#### **(4) その他**

科学研究費補助金はもちろんのこと、委託研究費や寄付金などの外部資金も獲得し、積極的な研究活動に利用している。

## 地表圏システム学講座（地理学）

### 1. 平成28年度の組織

人文地理学 岡橋秀典 教授  
友澤和夫 教授  
自然地理学 奥村晃史 教授  
後藤秀昭 准教授  
教育研究補助職員 田野由美恵 平成29年3月31日離職

### 2. 教育・研究活動

#### (1) 教育活動

##### 〔卒業論文〕

「中山間地域における買い物弱者問題と移動販売事業の意義—岡山県吉備中央町を事例として—」

「農山村への移住者の移住動機と定着過程—島根県吉賀町を事例として—」

「阿蘇カルデラ北西部の微地形と2016年熊本地震に伴う地変」

「消費後退期における新興茶産地の生産流通構造の変化—鹿児島県南九州市を事例として—」

「アニメキャラクターを活用した商店街活性化と主体間関係—鳥取県境港市の水木しげるロードを事例に—」

「離島地域における山村留学事業の導入と地域の変容—鹿児島県南種子町の山村留学事業を事例として—」

「景観の保全と活用における諸アクターの実践と住民意識—広島県竹原市を事例として—」

##### 〔修士論文〕

「セラミックス産業におけるイノベーションの創出と産地の存立基盤—愛知県瀬戸地域を事例に—」

##### 〔QE1〕（博士課程リーディングプログラム）

森 良祐（たおやかで平和な共生社会創生プログラム）

蘇 冠東（たおやかで平和な共生社会創生プログラム）

##### 〔博士論文〕

該当者なし

##### 〔集中講義〕

堀 和明（名古屋大学 准教授）「自然地理学特講・自然地理学特別講義」

**〔発表会等〕**

2016年度修士論文・卒業論文中間発表会 平成28年8月6日

2016年度修士論文・卒業論文発表会 平成29年2月12日

**(3) 研究活動**

2016年度地理科学学会春季学術大会 平成28年6月

2016年度地理科学学会秋季学術大会 平成28年10月

**3. トピックス**

**(1) 入学・卒業・就職・留学状況**

**〔入学（分属）〕**

学部 7名、博士課程前期 3名、博士課程後期 3名

**〔編入学〕**

0名

**〔卒業・修了〕**

学部 7名、博士課程前期 1名、博士課程後期 0名、QE1 1名、QE2 1名

**〔研究生〕**

0名

**〔就職〕**

学部 7名（民間4、公務2、教員1）、博士課程前期 0名

博士課程後期 0名

**〔進学〕**

学部 0名、博士課程前期 1名 QE1 2名

**〔留学〕**

0名

**〔外国人留学生・研究生等在籍状況（年度末）〕**

学部1名 博士課程前期4名 博士課程後期2名 研究生0名

**(2) 行事实施状況（セミナー、研修、合宿、調査など）**

平成28年度地理学野外実験 静岡県浜松市 平成28年7月

**(3) 教育・研究**

地理学・考古学・文化財学プログラムの指導・教育につとめ学部学生の多くがプログラムの目標を達成し、さらに地域調査士、GIS学術士、社会調査士などの資格を取得した。

複数の科研費に加え、大型プロジェクト等で国際的な研究成果を挙げて広く発信した。

## 地表圏システム学講座（考古学）

### 1. 平成28年度の組織

考古学 竹廣文明 教授（休職）  
野島 永 教授  
契約一般職員 中村典江

### 2. 教育・研究活動

#### (1) 教育活動

##### 〔卒業論文〕

「古墳時代における鍬・鋤の形態的研究 ―鉄刃と木柄の装着部分を中心として―」

「中国地方の弥生時代前期の甕形土器に関する研究 ―器壁外面に段を持つ甕の製作技法を中心に―」

「古代装飾須恵器の製作技術とその系譜 ―鳥形瓶・環状瓶を中心として―」

「中国地方における弥生時代脚台付鉢形土器の研究 ―製作技術を中心に―」

「愛媛県南予地方における縄文時代の地域的特色」

##### 〔修士論文〕

該当者なし

##### 〔博士論文〕

該当者なし

##### 〔集中講義〕

妹尾 周三（東広島市出土文化財管理センター長）「アジア考古学研究B・考古学広領域講義」

#### (3) 研究活動

考古学研究室遺跡見学会 平成28年5月7日

発掘調査測量機材勉強会 平成28年7月27日

帝釈峡遺跡群発掘調査勉強発表会 平成28年7月27日

スクモ塚1号墳測量調査勉強発表会 平成28年9月1日

2016年度考古学研究室卒業論文発表会 平成29年2月16日

### 3. トピックス

#### (1) 入学・卒業・就職・留学状況

##### 〔入学（分属）〕

学部 9名、博士課程前期 1名、博士課程後期 0名

**〔転学（学部分属）〕**

1名

**〔卒業・修了〕**

学部 5名、博士課程前期 0名、博士課程後期 0名

**〔就職〕**

学部 0名（民間0、公務0、教員0）、博士課程前期 0名  
博士課程後期 0名

**〔進学〕**

学部 4名、博士課程前期 0名 博士課程後期 0名

**〔留学〕**

0名

**〔外国人留学生・研究生等在籍状況（年度末）〕**

学部0名 博士課程前期0名 博士課程後期0名 研究生0名

**(2) 行事实施状況（セミナー、研修、合宿、調査など）**

景観研究の学際的アプローチ —チュービンゲン大学ドイツ考古学最前線— 平成 28  
年 8 月

平成 28 年度考古学野外実習調査（広島県東広島市スクモ塚 1 号墳） 平成 28 年 8～9  
月

平成 28 年度考古学野外実習調査（広島県庄原市・神石高原町帝釈峡遺跡群、神石町金  
谷遺跡・豊松村中平遺跡・有賀遺跡・堂面東遺跡他） 平成 29 年 3 月

## 地表圏システム学講座（文化財学）

### 1. 平成28年度の組織

三浦正幸 教授  
安嶋紀昭 教授  
伊藤奈保子 准教授  
中村典江 契約一般職員

### 2. 教育・研究活動

#### (1) 教育活動

##### 〔卒業論文〕

「戦国楚墓の絹織物の研究―「色」を中心として」  
「九州国立博物館蔵 命尊筆 仏涅槃図について」  
「掛川城二の丸御殿について」  
「近世女性服飾における紋付小袖について」  
「大阪市立美術館所蔵 橋姫蒔絵硯箱の研究」  
「江戸時代における上野焼の研究」  
「大竹手打刃物の研究」  
「高台寺蔵 楓桐菊蒔絵薬味壺について」  
「二条城二の丸御殿 大広間・黒書院の花熨斗形釘隠について」  
「和時計の研究」  
「奈良国立博物館所蔵国宝十一面観音菩薩画像について」  
「西国寺蔵金剛五鈷鈴について」

##### 〔修士論文〕

「備中吉備津神社の建築の特質と吉備国の神社に及ぼした影響について」  
「藤原定家邸に関する研究」

##### 〔博士論文〕

「安土桃山時代の書院造殿舎に関する研究」  
「皇室紋章の起源と変遷」

#### (3) 研究活動

- ・2016年度 卒業論文検討会 平成28年6月8日、7月8日。
- ・広島の伝統的工芸品に関するワークショップ・展覧会「工芸未来：見たことある、けど見たことない」 平成28年12月3日、平成28年12月8日～1月18日
- ・2016年度 博士論文・修士論文・卒業論文発表会 平成29年2月20日

### 3. トピックス

#### (1) 入学・卒業・就職・留学状況

##### 〔入学（分属）〕

学部 6 名、博士課程前期 2 名、博士課程後期 0 名

##### 〔編入学〕

0 名

##### 〔卒業・修了〕

学部 12 名、博士課程前期 2 名、博士課程後期 2 名

##### 〔研究生〕

1 名

##### 〔就職〕

学部 9 名（民間 7 名、公務 2 名）、博士課程前期 1 名、博士課程後期 2 名

##### 〔進学〕

学部 2 名、博士課程前期 1 名

##### 〔留学〕

0 名

##### 〔外国人留学生・研究生等在籍状況（年度末）〕

博士課程前期 5 名、博士課程後期 1 名

#### (2) 行事実施状況（セミナー、研修、合宿、調査など）

- ・筆の里工房「破壊と創造—比田井天来・小琴、芸術にささげた生涯」展（広島） 4 月
- ・尾道市向島 和棉種蒔実習（広島） 5 月
- ・高野山霊宝館特別展（和歌山） 7 月
- ・八千代の丘美術館展「三上貞直 美術刀剣展」（広島） 7 月
- ・福山市「ふるさと文化財の森」（文化庁） 藺草実習（広島） 7 月
- ・松濤園「朝鮮通信使・古伊万里所蔵名品展」 8 月
- ・大徳寺調査（京都） 8 月
- ・鑿阿寺調査（栃木） 8 月
- ・清白寺調査（山梨） 8 月
- ・インドネシア・ジャカルタ国立中央博物館ほか 2 館調査 9 月
- ・道後温泉本館調査（愛媛） 9 月
- ・文化財学分野研修旅行（奈良・京都） 10 月  
奈良国立博物館「正倉院展」・法華寺・海龍王寺・不退寺・法起寺・法隆寺・室生寺・当麻寺等
- ・不審菴調査（京都） 11 月

- ・大阪市立美術館所蔵作品調査（大阪）11月
- ・岡山県立美術館「岡山の仏教美術 涅槃図」（岡山）平成29年1月
- ・はつかいち美術ギャラリー「明治有田 超絶の美」展（広島）2月
- ・みよし風土記の丘ミュージアム「春を待つ三次人形とひな人形」展（広島）平成29年3月
- ・明王院調査（広島）3月

# 内海文化研究施設

## 1. 施設の教員構成

- 施設長 本多博之教授（歴史文化学講座・日本史学）  
副施設長 有馬卓也教授（応用哲学古典学講座・中国思想文化学）  
運営委員 中山富広教授（歴史文化学講座・日本史学）  
妹尾好信教授（日本・中国文学語学講座・日本文学語学）  
有元伸子教授（日本・中国文学語学講座・日本文学語学）  
奥村晃史教授（地表圏システム学講座・地理学）  
野島永教授（地表圏システム学講座・考古学）  
伊藤奈保子准教授（地表圏システム学講座・文化財学）  
研究員 勝部眞人教授（歴史文化学講座・日本史学）  
松本光隆教授（日本・中国文学語学講座・日本文学語学）  
高永茂教授（総合人間学講座・日本文学語学）  
久保田啓一教授（日本・中国文学語学講座・日本文学語学）  
陳翀准教授（日本・中国文学語学講座・中国文学語学）  
川島優子准教授（日本・中国文学語学講座・中国文学語学）  
岡橋秀典教授（地表圏システム学講座・地理学）  
友澤和夫教授（地表圏システム学講座・地理学）  
竹広文明教授（地表圏システム学講座・考古学）  
安嶋紀昭教授（地表圏システム学講座・文化財学）  
三浦正幸教授（地表圏システム学講座・文化財学）

## 2. 1年間の総括

### (1) 教育・研究・社会貢献

1年間の研究成果の一部は、『内海文化研究紀要』の第45号に反映されている。第45号（平成29年3月刊）には、妹尾好信「岩国市中央図書館所蔵和装図書目録稿（6）－文学の部（後半）、補遺－」、有元伸子・板倉大貴・萬田慶太・熊尾紗耶「＜資料翻刻＞永代美知代「デツカンシヨ」（2）」、久保田啓一「山口県文書館蔵「近藤芳樹日記」翻刻（十二）」、勝部眞人・海阿虎「『芸備日日新聞』厳島関連記事（8）」、本多博之「豊臣政権の次夫・次馬・次飛脚・次船制について」が掲載されている。

一方、『厳島研究』第13号にも成果を発表し、三宅紹宣「幕長戦争と厳島」、田中圭子「厳島御室任助入道親王と薫物－薫物秘伝書における「御室」ゆかりの秘方秘説を中心に－」、妹尾好信「今川了俊『厳島詣日記』一架蔵本の翻刻と通釈－」、菊本麗「翻刻 厳島神社上卿林家蔵書目録（その1）」、知念理「名所風俗図屏風の厳島－その類型と主題」、

坪田博美・宮本有希・諸石智大・内田慎治・中原-坪田美保・佐々木一寧「世界遺産宮島の森林を教材にした小中大学連携―宮島ロープウエー駅舎付近の植生回復を例に―」を載せた。

内海文化研究施設では、学界のみならず市民社会から要請されている厳島研究の課題を確認するために、多方面から研究成果の報告や意見を聞く研究会「季例会」を年3回、公開講演会として開催し、研究の深化・高度化につとめるとともに、地域社会との提携、研究成果の地域社会への還元をはかってきた。平成28年度も次の通り開催した。

○第36回 平成28年6月27日(月)

「芸州厳島ゆかりの人物と薫物(たきもの)―受け継がれる王朝のみやび」

広島女学院大学総合研究所客員研究員 田中圭子氏

○第37回 平成28年12月5日(月)

「平清盛の「平家納経」寄進とその後の展開―経巻の見返絵と願文の関わりを中心に―」

県立広島大学名誉教授 松井輝昭氏

○第38回 平成29年3月7日(月)

「広島県宮島で行われている森林生態学的調査で明らかになったこと」

広島大学総合科学研究科准教授 山田俊弘氏

講演内容は多岐に涉り、人文・社会・自然科学の各分野に広がっていて、厳島研究の学際的发展に寄与するさまざまな知見をそれぞれの専門的見地から示していただいた。そして、講演の記録は、講演者自身によって文字化され、『厳島研究』に掲載して、聴講者のみならず多くの読者に提供、共有化を図っている。なお、各講演会にあわせて、文学部玄関ホールにおけるミニ展示「厳島資料アラカルト」の展示内容を更新して、参会者および文学部・文学研究科構成員に厳島関係資料を公開していることを付記しておく。

## (2) 施設の運営など

内海文化研究施設は多分野の教員で構成されている。隔月第1月曜日に各分野の代表者からなる運営委員会を開催して、さまざまに議論した。そして、上記の『内海文化研究紀要』第45号および「世界遺産・厳島―内海の歴史と文化プロジェクト研究センター」の報告書『厳島研究』第13号の編集作業を行った。また、運営委員など17名を研究分担者として平成20～24年度に日本学術振興会の科学研究費補助金の基盤研究(B)研究課題「世界遺産・厳島の総合的研究―『伝承・伝説の時代性』の視点から―」を推進した経験を踏まえて、平成26年度・27年度に引き続き平成28年度も翌年度開始分の科学研究費補助金の申請を行ったが、残念ながら不採択となっている。平成29年度以降も、研究課題や組織構成に修正を加えながら申請する方針である。

### 3. 今後の研究目標と計画

内海文化研究施設には研究紀要の刊行費と季例会開催に関わる費用以外に研究活動に対する財政的支援がないので、科学研究費補助金など外部資金の獲得が欠かせない。世界遺産厳島の総合的研究を世界に発信すべく、新たな研究計画を策定して科学研究費補助金を獲得することが直近かつ最大の課題である。

内海文化研究施設が推進する厳島研究は、文学研究科のみならず、理学研究科や総合科学研究科教員の協力も得て、次第に文理融合の学際的な研究となりつつある。平成 28 年に世界遺産登録二十周年を迎えた厳島は、世界的に注目されている観光スポットでもある。世界トップ 100 をめざす広島大学にとって、厳島の総合的研究は、世界に発信できる重要な研究テーマであろう。県立広島大学の「宮島学センター」のように、大学をあげて研究を推進している大学もある。広島大学にもぜひ厳島研究を全学的な研究拠点として支援し育てていくことを検討していただきたいと思う。